

## 感染症から生まれる差別・偏見を

### どうなくしていくかを考える授業をおこないました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。

今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

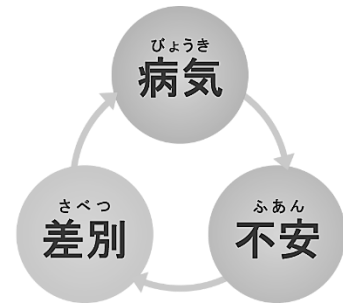
そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える授業を実施しました。



### 3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

### 負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① ウイルスの感染をひろげないために…  
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…  
情報源のはっきりしないうわさはしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見をひろげないために…  
言い出しにくい空気をつくらないこと



### 感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が、「差別や偏見」につながっています。

目では見えないウイルスに対する不安やおそれ



感染症にかかった人、その家族、地域や学校を“敵”とみなして 嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を差別して遠ざけることで つかの間の安心感を得る

新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。

たたくべき相手は、人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で、不安な気持ちを乗り越えましょう。

## 授業を受けた生徒の声

(新型コロナウイルス感染症の差別・偏見をなくすために、自分は何ができると思いますか。)

- 友達がコロナになっても、悪口やいじめをせずに、「大丈夫だった？」などのあたたかい言葉をかける。(1-1)
- 感染した人やそれに関係がある人に、悲しくなるようなことを言わないようにする。(1-1)
- うわさや、相手が不安になることを絶対に言わない。うわさを広めて、言い出しにくい空気にならない。(1-2)
- 相手の気持ちを考える。正しく理解して、うわさなどを信じないようにする。(1-2)
- 誰だって感染する可能性があるので、治って帰ってきた人に悲しい言葉を言ったり避けたりせず、いつも通りに接して、悲しませない。(2-1)
- 完全になくすことはできないけれど、「もし自分がそうなったら」と思ったときの気持ちを、差別や偏見を持っている人へ伝えたいです。(2-1)
- うわさを信じたり、うわさに流されたりしないようにする。自分が差別されたらどんな気持ちになるかを考える。(2-2)
- 友達とか家族が感染してしまっても、あたたかく見守ってあげること。帰ってきたら、コロナウイルスに関することは聞かずに、優しく声をかけることが自分にできることだと思う。(2-2)
- コロナウイルスのことについて、SNSなどで不安をあおらない。(いきいき)
- 間違った情報を信じない、伝えない。相手の気持ちを考えて行動する。(3-1)
- 優しさと思いやりを持った行動をする。自分がもしなったらどう対応してほしいか考えて行動する。(3-1)
- 学校で出ても、犯人捜しをしないようにしようと思った。友達がコロナにかかって戻ってきても、その人のことを避けたり、「コロナ」とか言ったりしないようにしないといけないと思った。自分にされて嫌なことはしないようにしようと思った。(3-2)
- 感染した人は、なりたくてなっているわけではないから、かかった人に対して差別するようなことは言わない。差別、偏見をなくすために、自分ができることは、「デマを流さない」「相手の気持ちを考えて接すること」です。(3-2)
- 差別を生まないために、明るくいつも通りに接する。(のびのび)



## ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など、何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきませんが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしく願いいたします。